

造影MRI検査を受けられる患者様へ

～造影検査説明書～

造影剤を用いることで、病気の状態をより正確に診断し、今後の治療に役立てることができます。
MRI用造影剤は安全なお薬ですが、まれに副作用が起こる場合があります。

1. MRI造影剤（ガドリニウム製剤）

（1）禁忌事項

ガドリニウム系造影剤に対し過敏症のある方、気管支喘息、重篤な肝障害や重篤な腎障害のある方は、原則、造影検査を受けられません。

（2）主な副作用は次のようなものです。

①軽い副作用：吐き気、嘔吐、熱感、動悸等です。

このような副作用が起こる確率は約100人に1人以下（1%以下）です。

②重い副作用：呼吸障害、血圧低下、意識障害等です。

このような副作用が起こる確率は約1万人に1人（0.01%）です。

③死亡：非常に稀ですが、病状、体質によっては約100万人につき1人の割合（0.0001%）で、死亡する場合があります。

④高度の腎障害の方は全身の皮膚の硬化・肥厚をきたし、時に重篤な副作用になる場合があります。

2. 肝臓用MRI造影剤（SPIO製剤）

（1）禁忌事項

鉄注射剤に対して過敏症の既往歴のある方、ヘマクロマトーシス等鉄過剰症の方、出血されている方は本造影検査を受けられません。

（2）主な副作用は次のようなものです。

①軽い副作用：鼻出血、熱感、倦怠感、発疹発赤、嘔気、頭痛、腰痛、背部痛、手足のしびれ、蕁麻疹、冷汗などがあります。

このような副作用が起こる確率は250人に1人（0.4%）です。

②重い副作用：呼吸障害、血圧低下、意識障害などがあるとされています。

しかし、現在までそのような副作用の報告はありません。

③血管外に本造影剤が漏れた場合、漏出部位周囲に色素沈着を生じる場合があります。

※副作用のほとんどは注射後まもなく出現しますが、まれに検査後数時間～数日後に副作用が出現する場合があります。

3. 妊娠中、授乳中の方へ

妊娠中の造影剤を用いた検査は、原則、行いません。

授乳中の方は、48時間（最低24時間）授乳を控えてください。



4. 検査前の絶食について

検査4時間前の食事は控えてください。水やお茶などの水分はとって構いません。

※万一、副作用が起きた場合は、直ちに放射線科医師ならびに担当医師が対応いたします。

異常を感じたら、速やかにお知らせください。